



はな ぐもりって何のことなの

「かすみ」がかかって、くもったようになる

3月を「かすみ初月」というように、春は「かすみ」の多い月です。「かすみ」は、空気中にうかんでいる、水蒸気などの細かいつぶのために、大気(空気)がうすくにごって遠くのもの、はっきり見えないで、ぼんやりしている現象のことです。

低気圧が近づいて上空に雲が広がる場合と、「かすみ」や黄砂(中国北西部から飛んでくる砂)によって、空がぼんやり白っぽく見えるときがあります。春は低気圧が、次々に日本に近づいてきます。

低気圧の東にある前線の雲が上空に広がった状態を、花ぐもりといいます。また、黄砂や水蒸気が多くなると、空がぼんやりかすんだようになります。このときも花ぐもりとよんでいます。

水蒸気などが上空へ運ばれる

春のひがんのときと、秋のひがんのときの気温を比べてみると、春のひがんの気温のほうが、秋のひがんの気温よりも、10度近く低くなっています。

春のひがんのときと、秋のひがんのときの太陽の高さは同じです。したがって、地面を暖める太陽からの熱の量が同じなので、春のほうが、地面付近と上空の温度の差が大きくなります。

地面付近と、上空との温度の差が大きくなると、空気の動きがさかんになって、地面付近のごみや砂、水蒸気などが上空へ運ばれていき、空がくもったようになります。

(監修・村山 貢司)

